



メディカルシステム 事業説明会

2023年10月12日

富士フイルムホールディングス株式会社

**NEVER
STOP**

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルム株式会社 取締役執行役員
メディカルシステム事業部長

秋山 雅孝 (MASATAKA AKIYAMA)

富士フイルム株式会社 執行役員
メディカルシステム事業部 メディカルシステム開発センター長
兼 メディカルシステム事業部 ITソリューション部長

鍋田 敏之 (TOSHIYUKI NABETA)

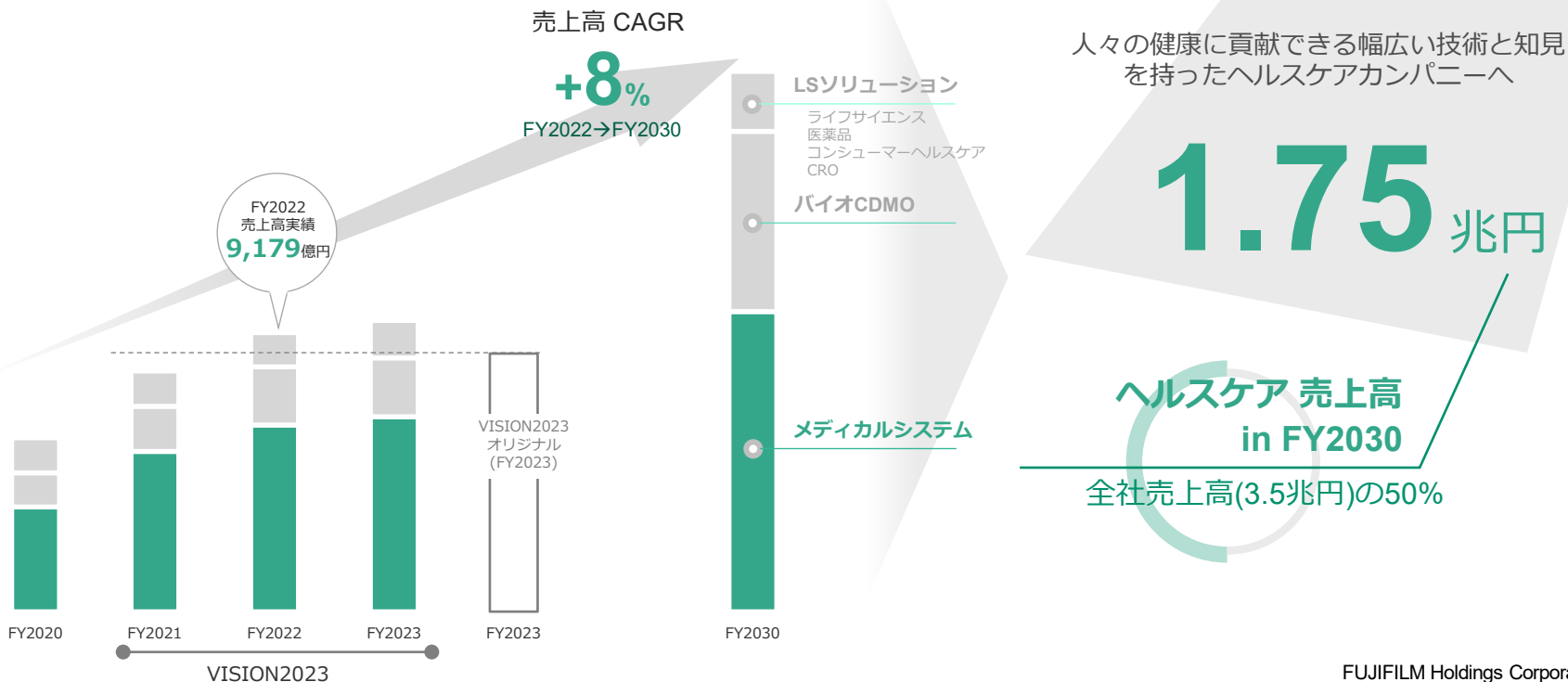
1. 当社メディカルシステム事業の概要
2. 重点項目①：グループシナジーの拡大
3. 重点項目②：IT・AI技術の活用による付加価値向上
4. 今後の成長戦略
5. まとめ



当社メディカルシステム事業の概要

1-1 | 当社におけるヘルスケアセグメントの位置づけ

2030年度 のグループ売上高目標 3.5兆円のうち、ヘルスケアセグメントが50%を占める見通し
メディカルシステム事業は、当セグメントで最大の売上・利益を占める成長の中核



「予防」・「診断」・「治療」までをカバーする
富士フイルムグループにしかできない医療バリューチェーンを形成

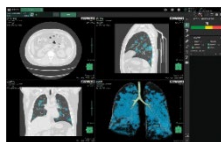
予防

- 健診センター(NURA)
- 感染予防
- 遠隔・在宅管理
- ワクチン原薬
- 機能性化粧品
- サプリメント



診断

- 画像診断システム
- メディカルIT
- 内視鏡
- 体外診断用医薬品(IVD)
- 超音波システム
- CT・MRI



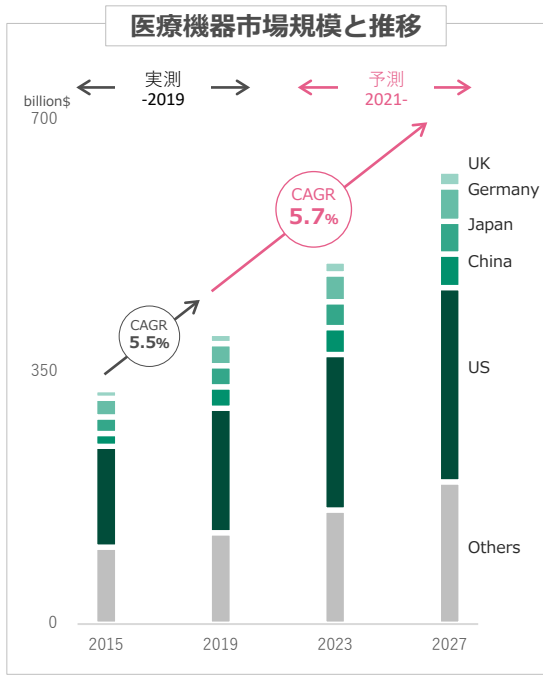
治療

- 術前・術中支援
- 低侵襲治療
- 創薬支援
- バイオCDMO
- 細胞/遺伝子治療
- 細胞培養用培地
- 医薬品
- 低分子医薬CDMO



1-3 | 医療機器市場の成長の背景と動向

高齢化の進展、新興国における医療インフラ整備、先進国におけるデジタルイノベーションの取り込みに伴い、医療機器市場は今後も拡大する見込み



- ・ 2019年までのデータ
2014~2023 『Worldwide Medical Device Market Forecast』
(2020年、Fitch Solutions)等もとにデロイト作成
- ・ 2023年以降のデータ
みずほ銀行産業調査部予測値に基づく

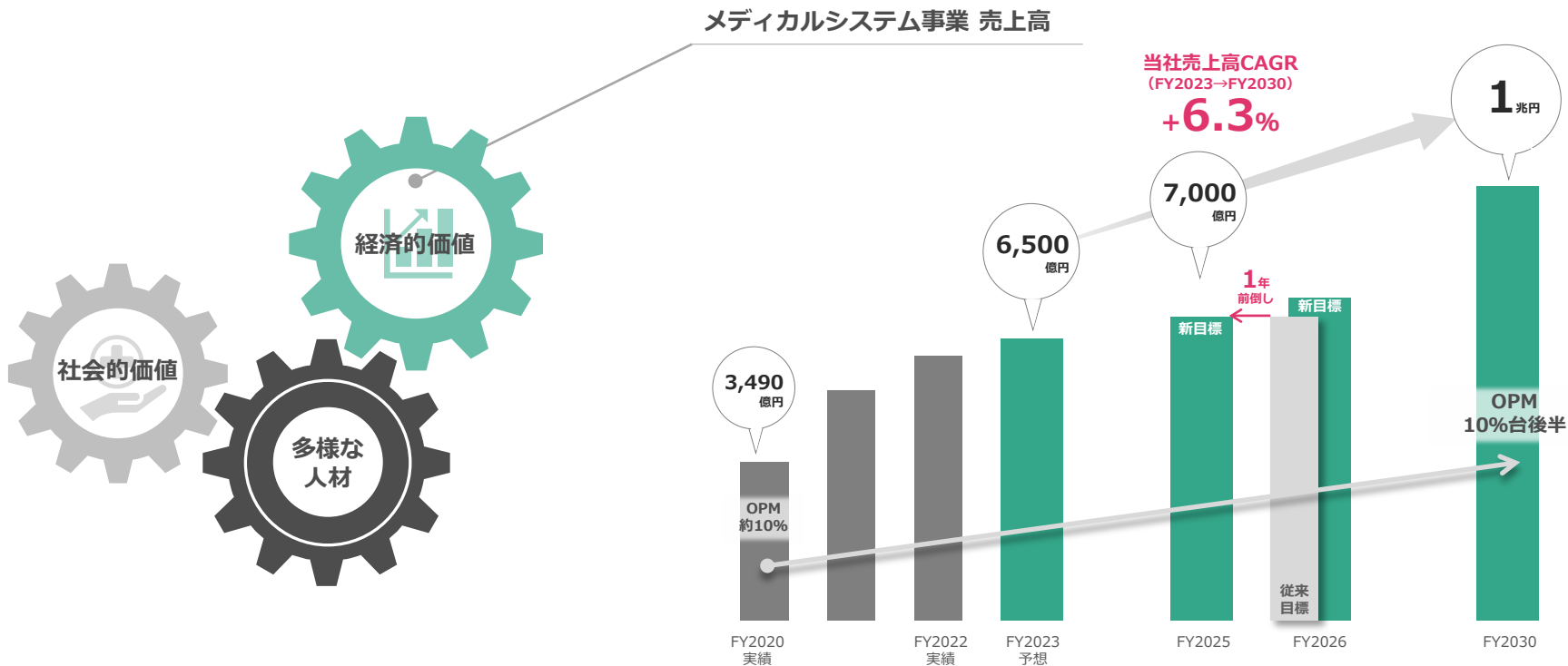
当社関連の主要製品

製品	市場規模	成長率	動向
CT	5,000~ 6,000億円	成長率	3~4%
		市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進国では、高齢化による慢性疾患患者の増加と医療費逼迫により、予防のための検査頻度増加、精密医療ニーズも増加し、市場は成長 ・ 途上国では、ミドル・ローエンド市場が大きい
内視鏡	4,000~ 5,000億円 (消化器内視鏡+ ソフド)	成長率	4~6%
		市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化やがん罹患数増加を背景とする、診断と治療の両ニーズの高まりにより、市場は成長。 ・ 途上国では、中規模の病院にも導入が拡大しつつある一方で、製品を取り扱う医師のスキル問題化
超音波 診断装置	7,000~ 8,000億円 (据置型・携帯型 含む)	成長率	3~4%
		市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被ばくのない非侵襲、診断対象の動きをリアルタイムで観察できるメリットに加えて、患者が検査を受けやすい場所で診断を行うニーズの高まりから、市場は成長 ・ 医療以外の介護やリハビリ、スポーツなどの分野での利用にも期待
		方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査頻度増加等に対応した低被ばく化や小型化 ・ 医師軽減等に資する操作自動化 ・ AIによる診断支援
		方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高解像度化 ・ AIを用いた診断支援 ・ AIやロボットを用いた治療支援(ナビゲーションと手術操作)
		方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小型軽量化・ポータブル化の技術追求 ・ AIとの融合による、技師の経験に依らない撮影の最適化

- ・ 市場規模、成長率は、当社推定

1-4 | メディカルシステム事業の中長期目標

当初計画を1年前倒し、2025年度に売上高 7,000億円に到達
2030年度に「売上高 1兆円・営業利益率 10%台後半」を目指す



1-5 | メディカルシステム事業の特徴

全ての医療機器において、IT・AI技術との連携を加速
2025年度売上高目標7,000億円のうち、AIを搭載した医療機器やIT関連の売上高を5,000億円にする

X線画像診断



独自の画像処理など差別性のある技術をもち、
CRは世界シェア1位(*2)、DRパネルは国内シェア1位(*3)

超音波



POC(Point of Care) 向け携帯型と据置型の幅広い領域を
カバーし、世界シェア No.3、携帯型ではNo.1 (*4)

材料他

診断・治療
支援

SYNAPSE® PACS
世界トップシェア(*1)

ワーク
改善

REILI

保守

IT



CT & MRI

2021年度に日立製作所の画像診断事業より買収
高画質や効率的なワークフローを強みとする



内視鏡

病変疑い箇所の拾い上げにAI技術を活かしたソリューションを
いち早く導入し、AI技術を活用した製品は60カ国で導入。




IVD(体外診断)

POCT (Point of care testing) タイプのIVDシステムを提供
同タイプ市場において国内シェアNo1。(*5)

2025年度売上高目標7,000億円のうち
IT・AI関連売上高

5,000 億円



成長にむけた重点項目



01

グループシナジーの拡大

02

IT・AI技術の活用による付加価値向上



01

グループシナジーの拡大

02

IT・AI技術の活用による付加価値向上

2-1 | 日立製作所からの画像診断機器事業買収の目的

日立製作所から画像診断関連事業を買収し、2021年3月に富士フイルムヘルスケア*を連結子会社化
相互補完的なポートフォリオに、当社の技術を掛け合わせる事によるシナジー創出が目的

*：日立製作所の画像診断機器事業を承継し設立

機器

領域	画像診断システム										医療IT		IVD
製品分類	CT	MRI	X線透視	X線撮影装置	マンモ	回診車	DRパネルCR	骨密度測定	超音波システム	内視鏡	EHR/HIS	PACS	
富士フイルム													
富士フイルムヘルスケア													

ソフト(IT/AI)

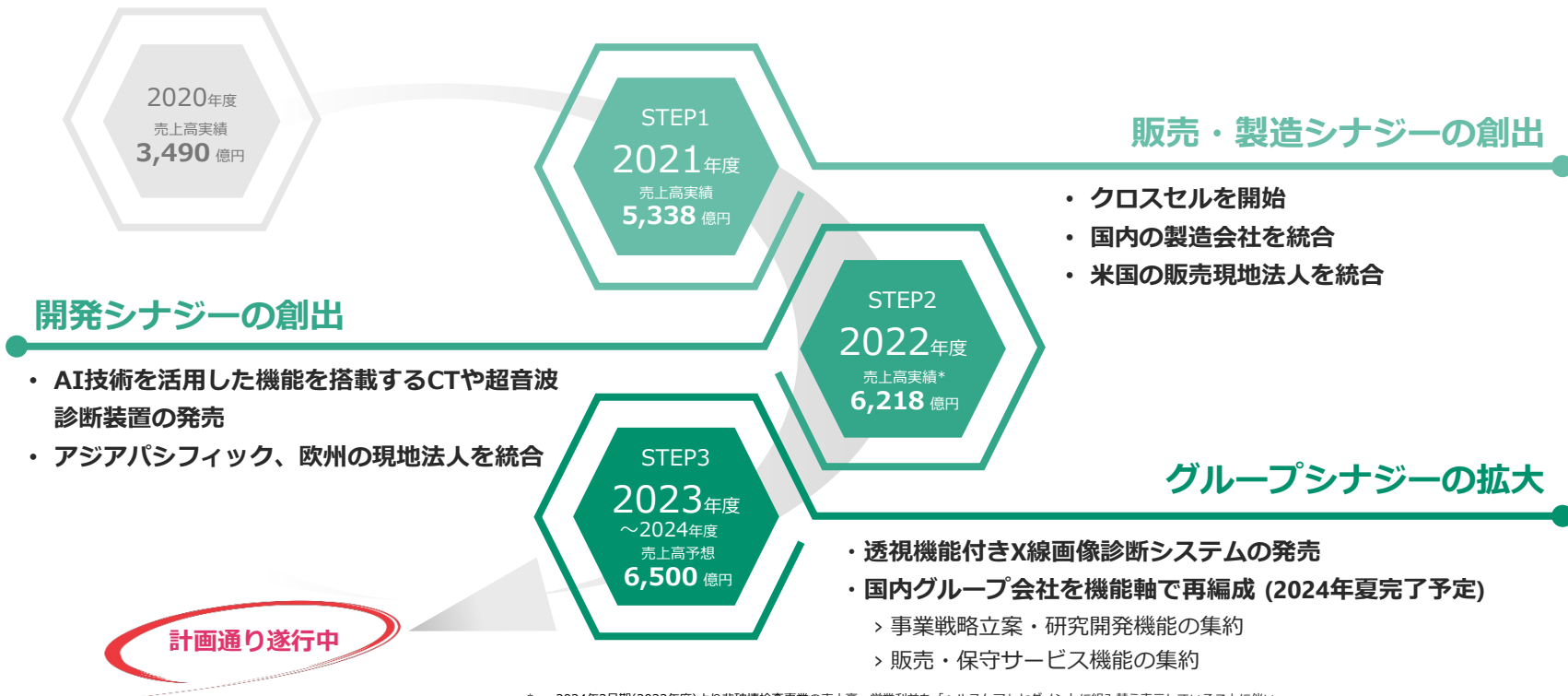
×

PACS
世界シェアNo1
SYNAPSE

最先端AI技術
REiLi

高度な画像処理
ソフトウェア技術
Image Intelligence™

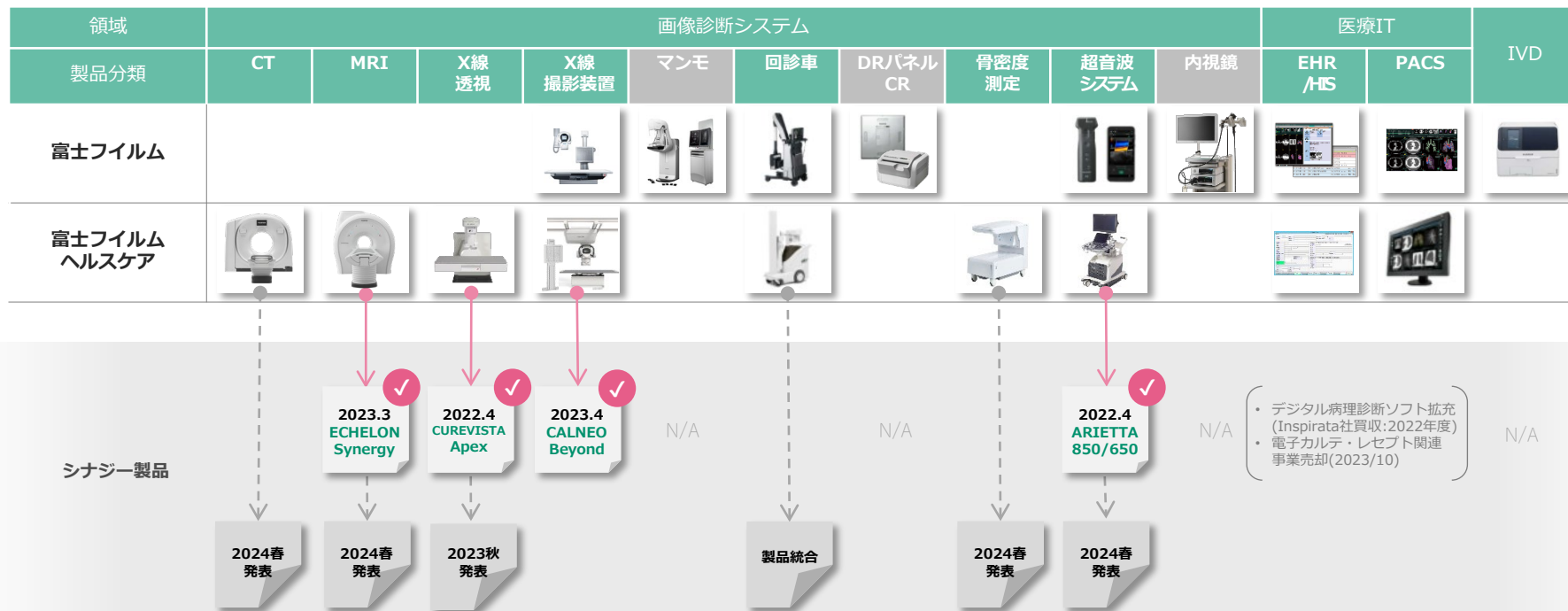
富士フィルムヘルスケア発足後のPMIは計画通り遂行し、販売・製造・開発シナジーが拡大 2023年度より国内グループ会社の再編に着手し、より強固な事業体制を構築する



*: 2023年3月期(2023年度)より非破壊検査事業の売上高・営業利益を「ヘルスケア」セグメントに組み替え表示していることに伴い、2023年3月期(2022年度)の売上高をリスタートしています。

2-3 | 開発シナジーを発揮した新製品展開

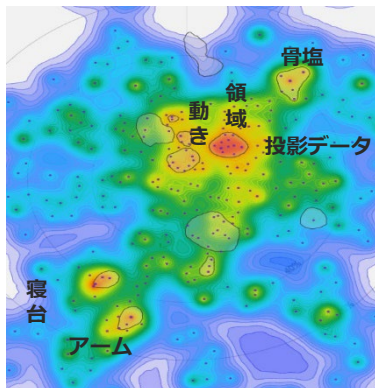
富士フィルムヘルスケアと富士フィルムにおける研究開発機能の相互連携を進め 両社の技術を掛け合わせたシナジー製品をスピーディーに開発



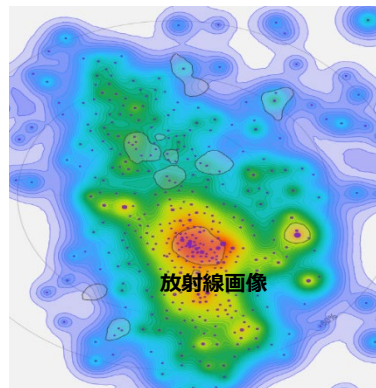
富士フィルムと富士フィルムヘルスケアが保有する技術は補完性が高い
互いが得意とする技術を戦略的に融合し、従来にないソリューション・製品展開や、付加価値向上を実現する

放射線領域における両社技術ピースの補完関係

富士フィルムヘルスケア (FHC)
大型機器をシステムとして操る技術



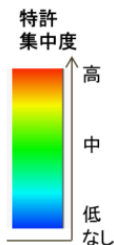
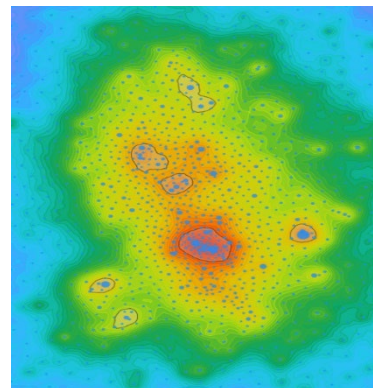
富士フィルム (FF)
3D放射線画像を徹底的に操る技術



+



FHC+FF
相互補完的な基幹技術を融合





重点項目

01

グループシナジーの拡大

02

IT・AI技術の活用による付加価値向上

医療の高度化・複雑化や、疾病構造の変化を背景に、医療従事者の業務が膨大化・煩雑化し負担が増加

課題

1

高齢化や人口増加による医療費の増大



課題

2

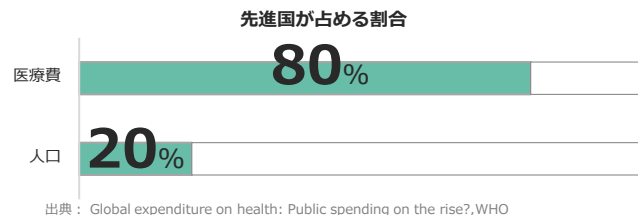
希少性・難治性疾患に対する対策



課題

3

医療サービスの地域間格差



課題

4

医療従事者の人材不足と過酷な労働環境

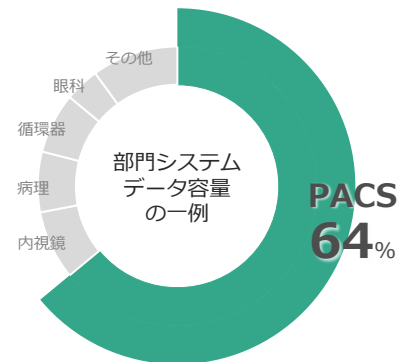


幅広い医療機器を手掛けるグループの総合力とIT・AI技術を活用し、医療現場の課題解決に貢献する

PACS

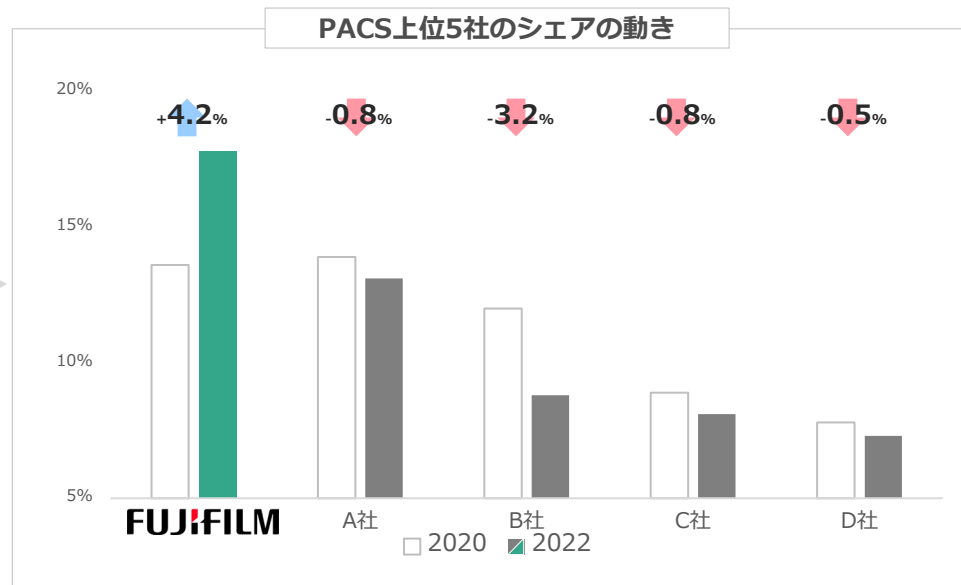
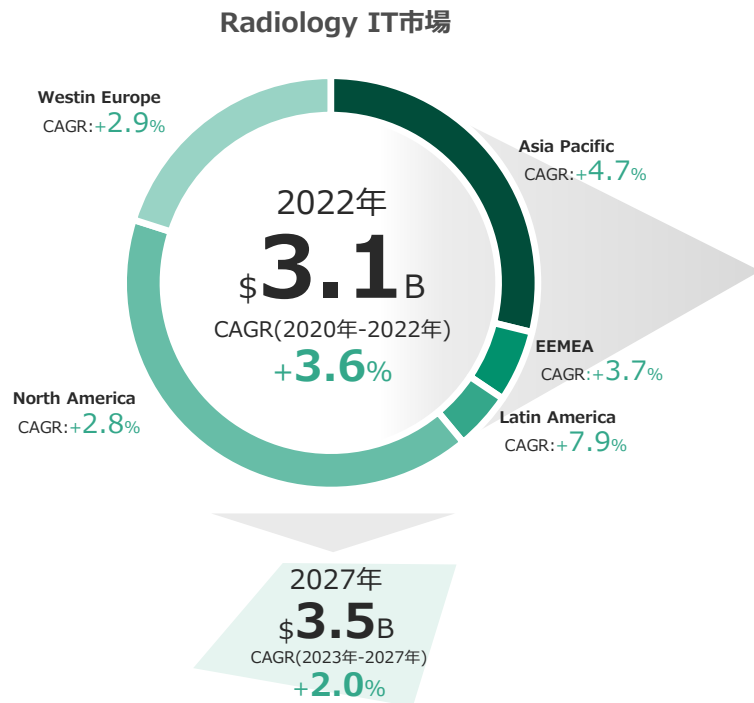
Picture Archiving and Communication Systems (医用画像情報システム)

医療画像撮影装置で撮影した画像を電子的に保存して、院内ネットワーク内で配信する中核システム
→ 医療機関のITプラットフォーム



PACS導入のメリット	フィルムによる画像診断の問題点
1. 業務の効率化	目的のフィルムを探す手間、フィルムを保管するスペースの確保、フィルムの搬送にかかる作業工数と時間
2. 人的ミス回避	フィルムの取り違いや紛失が発生するリスク
3. 地域医療の向上	フィルムの物理的な搬送と、それによるフィルムの画質劣化

PACS市場が拡大する中、当社製品「SYNAPSE」はグローバルシェア1位を継続中 2022年も更なるシェアアップを達成



3-4 | 当社のPACS/医療IT開発における強み

「画像技術」・「最先端の開発体制」・「オープンプラットフォーム戦略」を強みに、
長きにわたり、PACS/医療IT開発で業界をリード

01

長年培ってきた画像技術

02

最先端の医療AI開発体制

03

オープンプラットフォーム戦略

年 出来事

1983	世界初のデジタル画像X線システム FCR発売
1996	Image Intelligence発表
1999	医用画像情報システム(PACS) SYNAPSE発売
2008	3D画像解析システム SYNAPSE VINCENT発売
2015	統合診療支援プラットフォーム CITA Clinical Finder発売
2018	AI技術ブランド「REILI」発表
2019	AI活用した読影プラットフォーム SYNAPSE SAI Viewer発売
2021	画像診断支援AI開発プラットフォーム SYNAPSE Creative Space発売
2023	デザイン・IT開発拠点 Creative Village オープン



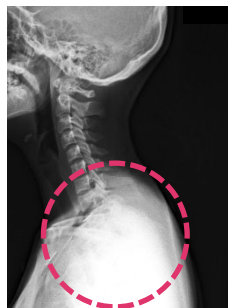
PACS/医療IT開発の強み

SYNAPSE

当社は、AIによる診断精度向上において重要な「画像データの質」を上げるための画像処理技術を長年培ってきた

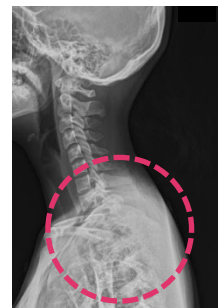
学習データは多いが、データの質が悪い
ため、診断精度は低い

不鮮明な画像



少ない学習データだが、データの質が
良いため、診断精度が高い

鮮明な画像



学習させる
画像データの質

学習データ数

陽性感度
陽性を陽性と判定する割合

陰性感度
陰性を陰性と判定する割合

21万症例

94.9%

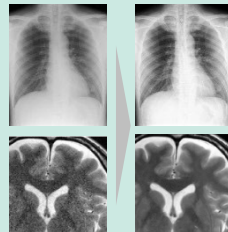
20.0%

画像処理

画像処理

なし

あり



2万症例

94.9%

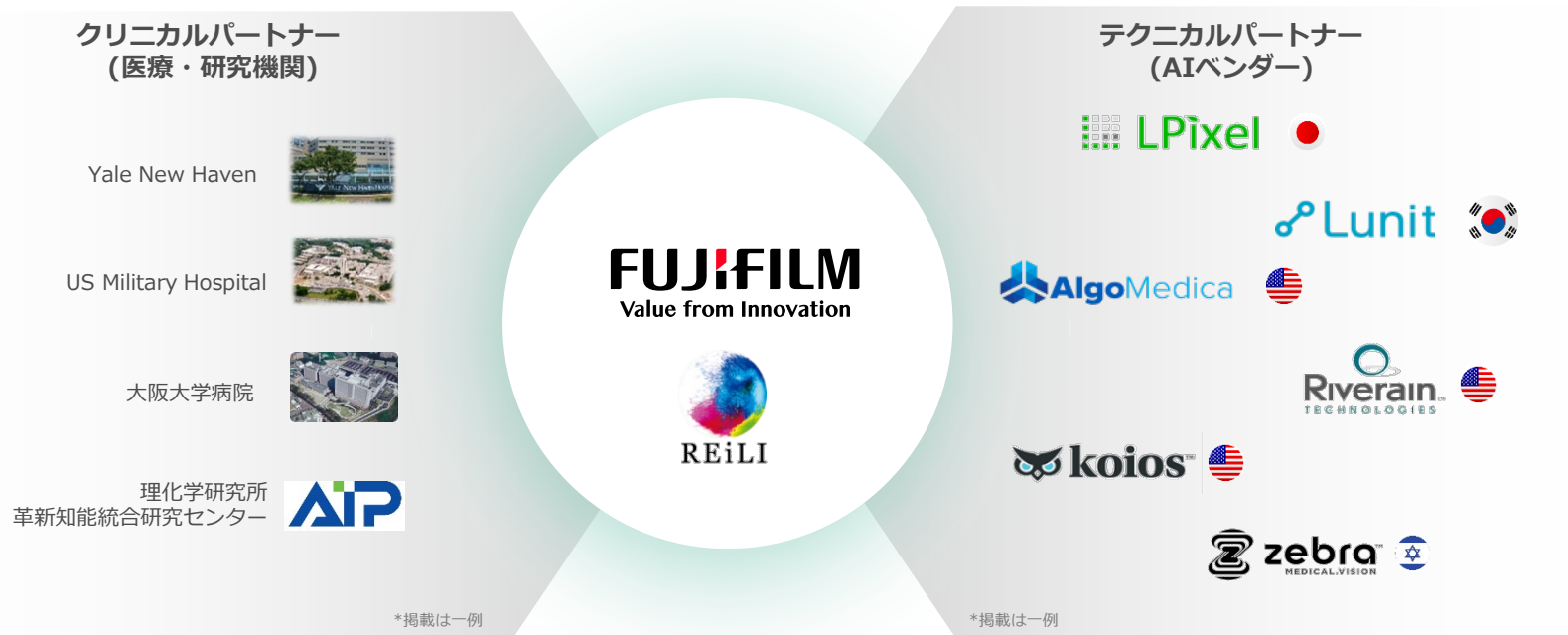
87.5%

PACS開発に着手した2000年当初から、グローバル展開を見据え米国で、いち早く開発体制を構築
次世代の医療AI研究をリードするAI・ICT人材を内部で育成



設立した次世代医療AI拠点で、社内外の若手人材が著名な研究者との交流を通じて最先端AI技術を学習

当社のAI技術ブランド「REiLI」をオープンプラットフォームとして、
国内外の医療・研究機関や、優れたAI技術を持つベンダーとパートナーシップを組み、開発を加速



3-5 | 当社の価値提供スキーム

PACSに蓄積された大量の画像データと、高度な画像処理技術や各種AI技術によって様々なアプリケーションを開発
 自社の幅広い医療機器ラインアップ、更には他社製品に搭載することで、新たな価値を提供する








3-6 | 唯一無二の医療IT/医療機器のポートフォリオ

幅広い医療機器ラインアップと、それらを束ねるITの両方の資産を保有

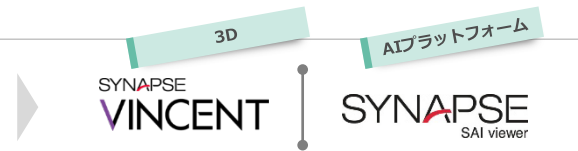
(3D/AIプラットフォーム)

良質な画像データへのアクセスに加え、卓越した画像活用技術により、機器の高付加価値化を実現

	医療IT					医療機器					
	画像管理			画像活用		XR マンモ	CT	MR	内視鏡	超音波	IVD
	放射線 PACS	VNA	病理 PACS	3D	AIプラット フォーム						
FUJIFILM	✓	✓	✓	VINCENT ✓	SYNAPSE ✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
A社 	✓	✓		✓		✓	✓	✓		✓	✓
B社 	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓		✓	
C社 	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓
D社 	✓	✓		✓		✓	✓	✓		✓	
E社 									✓		

 競争優位性のカギとなる画像活用技術

撮影した画像を用いたAIによる診断支援のための技術や、検査・診断ワークフローの自動化など
オペレーション支援・業務効率化支援の技術を活用し、機器を高付加価値化



3-7-1 | 当社の3D画像解析システム SYNAPSE VINCENT

3D

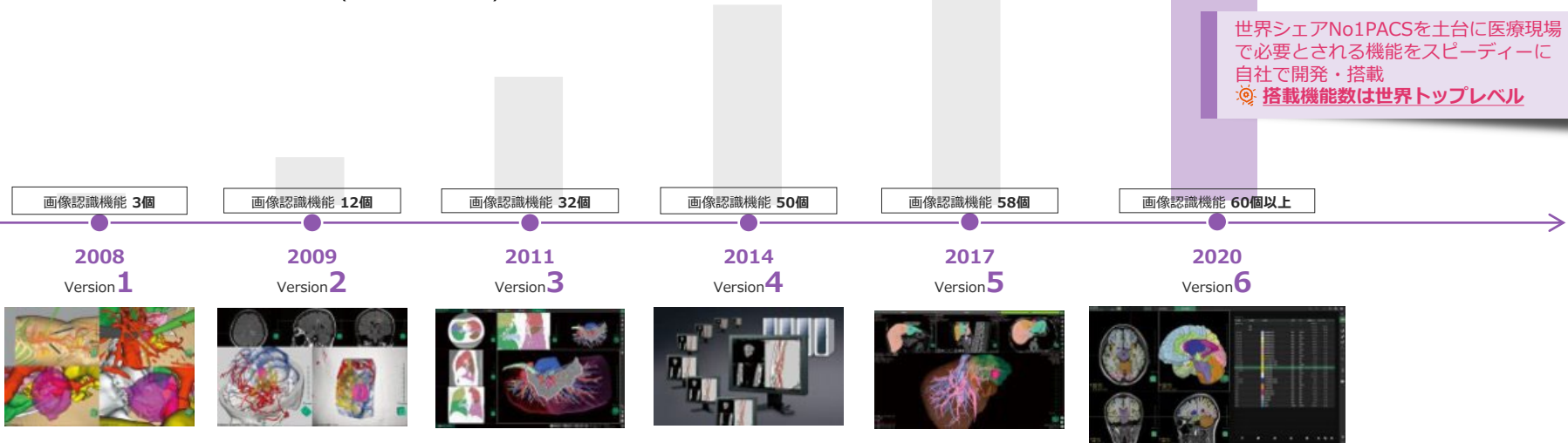
SYNAPSE VINCENT

CT、MRIなどの断層画像から高精度な3D画像を描出し
解析を行う3D画像解析システム

SYNAPSE VINCENT: 販売名: 富士画像診断ワークステーション FN-7941型

VINCENT導入施設数
(ワールドワイド)

2,000 施設
(2023年10月時点)



3D画像解析システムの意義

① 臓器の位置関係を直感的に把握

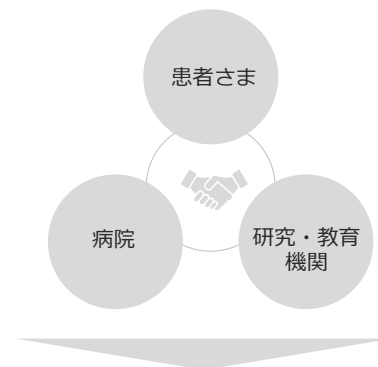
- 解剖を頭の中で考えることなく、可視化することで直感的に理解
- 手術シミュレーション
- 解剖情報、患者情報をチームで把握(術前カンファレンスでの検討)

② 画像から立体的な計測や定量評価

- 3次元的な体積計測、専用解析による定量化
- 診断・治療方法の判断材料の一つとして利用

③ 患者さまへの適切な情報提供、医学教育

- 一般の方にも理解しやすいインフォームドコンセント
- 教育機関等での活用



手術のリスクを抑えることや医療の質の向上に貢献

1936年のX線フィルムの発売以来、画像解析技術の進化に努め、医用画像の高い再現性を追求してきた



① グッドデザイン・ベスト100(2017年度)

“ 視覚的な設計がよくできているのに加えて、CTやMRIなどの断層画像からの3Dモデル構築の時間や操作中の処理が非常に短い時間で実現されている。 ”

② iF DESIGN AWARD 2017(ドイツ)

③ Red Dot Award 2022:Best of the Best (ドイツ)



3-8-1 | 当社のAIプラットフォーム SYNAPSE SAI viewer

AIプラットフォーム

SYNAPSE
SAI viewer
SAI : Smart Advanced Imagingの略

CT画像からの臓器自動抽出などDeep Learning技術を設計に用いて
画像診断ワークフローを支援するAIプラットフォーム

開発技術は、最適なプラットフォームで迅速に製品に搭載

医療AI開発における4つの技術アプローチ

STEP

0

高画質化

(Image Quality Improvement)

視認性向上・低被曝を支援

STEP

1

臓器

セグメンテーション
(Segmentation)

解剖学的構造の把握を支援

STEP

2

コンピュータ
支援診断

(Computer-Aided Diagnosis)

病変の検出・計測を支援

STEP

3

ワークフローの
効率化
(Workflow)

レポート作成を支援



2023年5月に次世代AI開発拠点“Creative Village ITs棟”をオープン
多彩な人材を集結し世界最高峰のAI技術を開発できる環境を整備することで、医療AI開発を加速させる

導入事例：富山県立中央病院

ワークフロー全体にAI技術を活用し、放射性部門の検査・読影の大幅な効率化を達成

日勤者のCT検査業務
終了時刻

従来(当社製品導入前)

18:00

2時間短縮

現在(導入後)

16:00





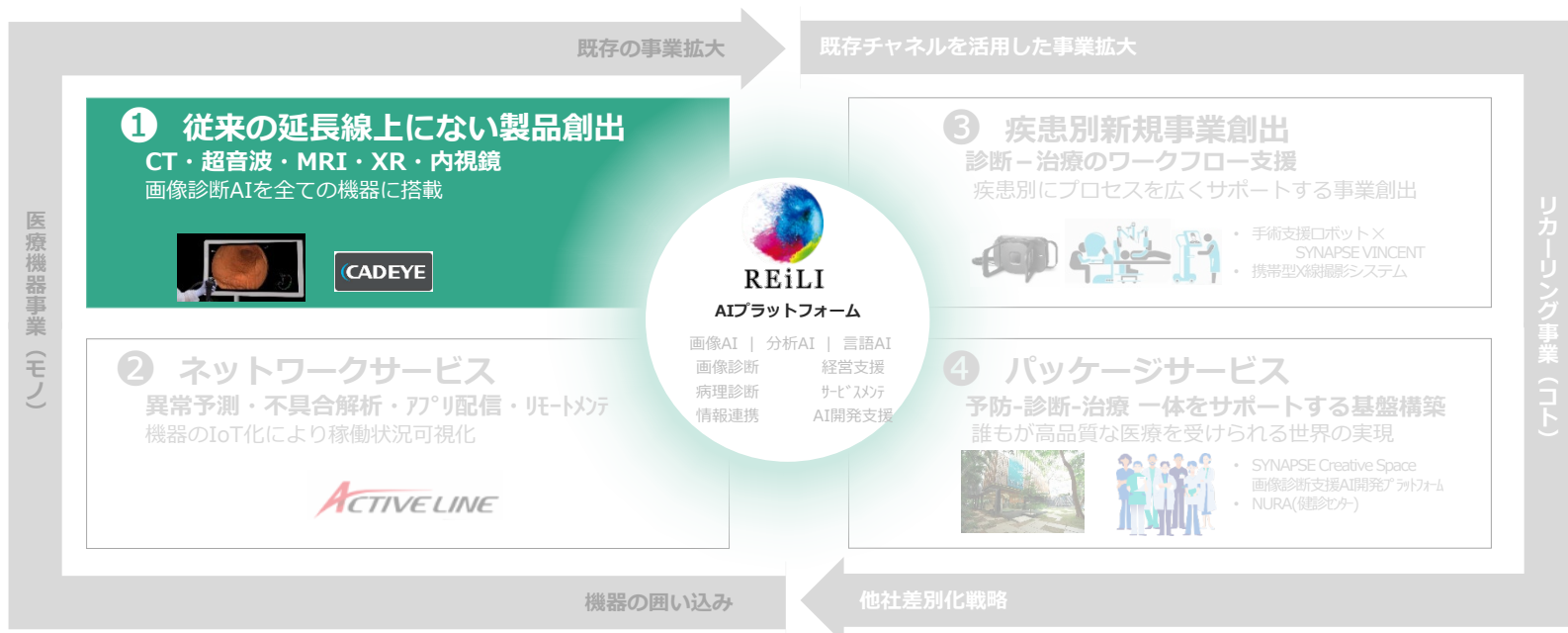
今後の成長戦略

IT・AI技術を活用した高付加価値の製品によって医療従事者の体験を変え、「モノ」から「モノ+コト」による価値提供へ転換することで、当社独自の「唯一無二の医療バリューチェーン」を形成する



4-1 | 従来の延長線上にない製品創出

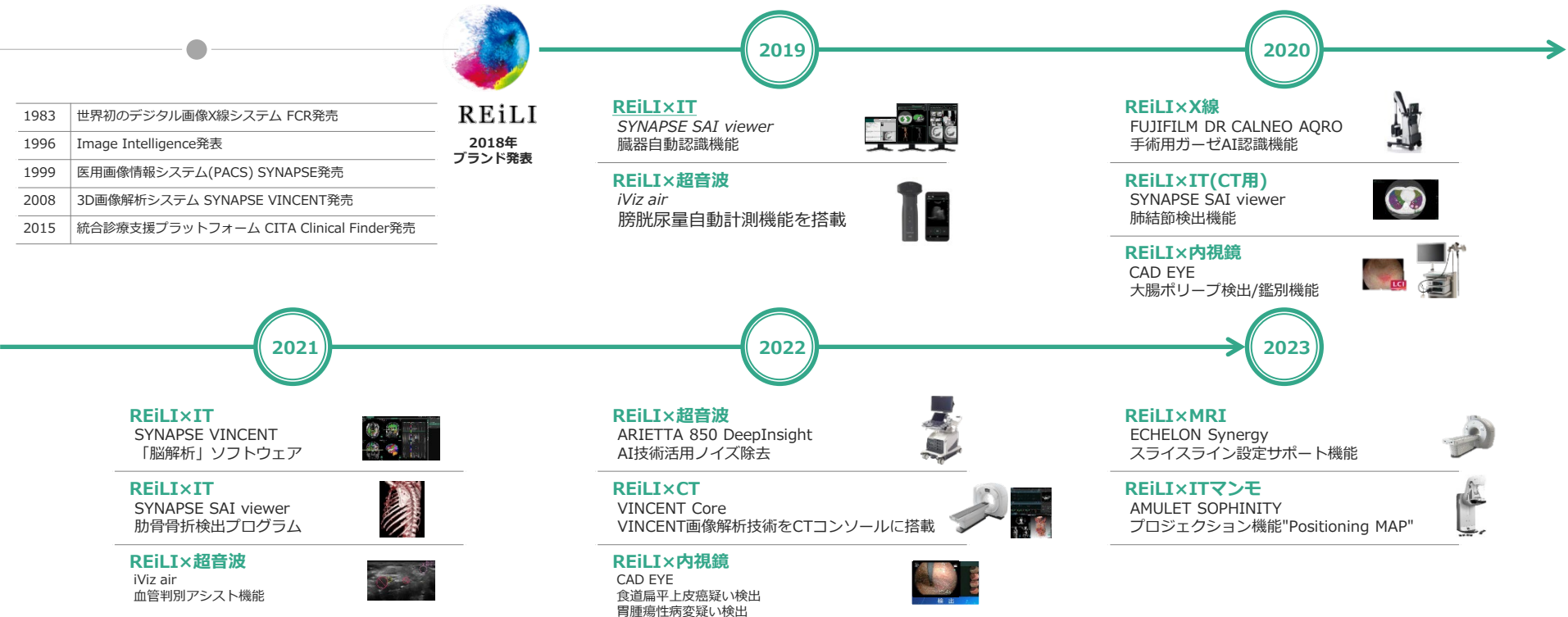
画像診断AIを武器に全ての機器へ展開 機器の価値の底上げと、従来の延長線上にない製品事業を創出する



4-1-1 | AIを搭載した製品の発売

- | | | | |
|---|----------------|---|-----------|
| 1 | 従来の延長線上にない製品創出 | 3 | 疾患別新規事業創出 |
| 2 | ネットワークサービス | 4 | パッケージサービス |

「REiLI」発表後、AI技術を活用した製品を矢継ぎ早に投入し、従来の延長線上にない製品を創出



内視鏡製品主要ラインアップ

製品

消化器内視鏡システム

LASEREO



レーザー光源搭載の
フラッグシップモデル
(国内市場を中心に展開)

ELUXEO



LED光源搭載の
フラッグシップモデル
(海外市場を中心に展開)

6000システム



スクリーニング検査を
メインとする検診センターや
クリニックをターゲットとした
LED光源搭載の普及価格帯モデル

技術

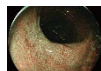
Multi-Light Technology

照射した光と画像処理を組み合わせることで、観察に適した画像を作り出す技術

BLI

Blue Light Imaging
Blue LASER Imaging

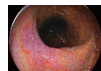
血管や表面構造などの観察に適した画像
を表示



LCI

Linked Color Imaging

赤みを帯びた色はより赤く、白っぽい色
はより白くなるように色の拡張・縮小を
行い、粘膜の微妙な色の違いを強調



白色

IT/AI

支援・管理システム



内視鏡画像診断支援システム

内視鏡診断支援機能「CAD EYE」を搭載したプログラムを
インストールすることで使用可能



内視鏡情報管理システム

院内のさまざまなシステムと連携し、つながる医療を実現
する内視鏡部門のためのシステム



対策型胃内視鏡検診に貢献するクラウドサービス

胃内視鏡検診実施施設と二次読影機関の間で検診情報を安全
に共有できるクラウドサービス。

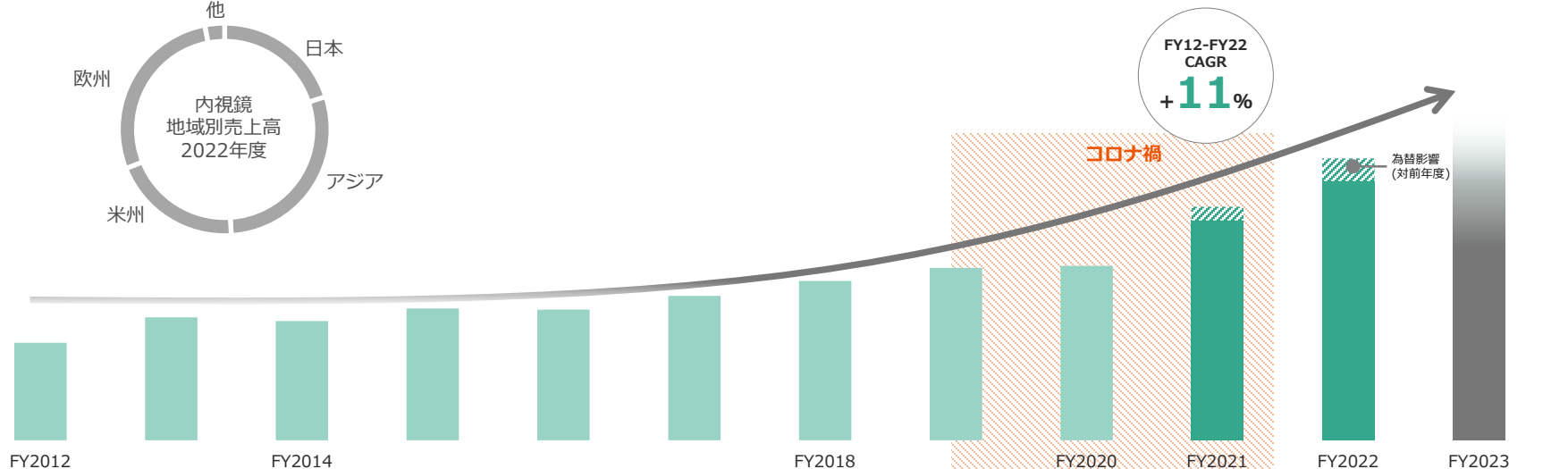
技術

- ・画像処理
- ・機械学習
- ・自然言語処理



Powered by REILI

4%-6%
当社調べ
当社の内視鏡事業は、市場成長率を上回るCAGR 11%で成長（2012-2022）



Phase1
「BLI」「LCI」の国内展開

Phase2
「BLI」「LCI」の海外展開

Phase3
AI活用による成長加速

- 1 従来の延長線上にない製品創出
- 3 疾患別新規事業創出
- 2 ネットワークサービス
- 4 パッケージサービス

当社の内視鏡事業は、自社開発のAIを活かし、 ワークフロー全体（操作-診断-レポート）を支援できることが他社にない強み

下部 | 大腸 🍌

上部 | 食道・胃 🍷

薬事法 該当/非該当



企画検討中

CADEYE
NEXUS

大腸ポリープ
検出・鑑別

✓

日	欧	米
✓	✓	

大腸レポート支援

ランドマーク
フォトチェッカー

CADEYE

胃腫瘍性病変疑い検出
食道扁平上皮癌疑い検出

日本初薬事承認*
2022年

日	欧	米
✓		

企画検討中

	下部 大腸			上部 食道・胃		
	操作/手技支援	診断支援	レポート支援	操作/手技支援	診断支援	レポート支援
A社	-	日 ✓ 欧 ✓ 米	-	-	日 欧 米 ✓	-
B社	-	日 欧 米 ✓	-	-	-	-

☀️ 当社の診断支援AIは、自社開発であることを強みとして、最適な形でワークフローに導入することが可能

*AI技術を活用して開発された、上部消化管領域の内視鏡診断を支援する医療機器として日本初。JAAME（公益財団法人 医療機器センター）Webサイトをもとに当社調べ。2022年9月22日時点。

内視鏡診断支援機能「CAD EYE」の対象領域をさらに拡大 上部消化管領域の内視鏡診断を支援する医療機器として日本初*の薬事承認を取得

内視鏡診断支援機能



膨大な臨床データから深層学習（Deep Learning）を活用して開発
内視鏡検査における病変の検出と鑑別をサポートし、内視鏡診断の均てん化や見逃し低減に貢献

日本初
2022年薬事承認*

■ 上部 | 食道・胃



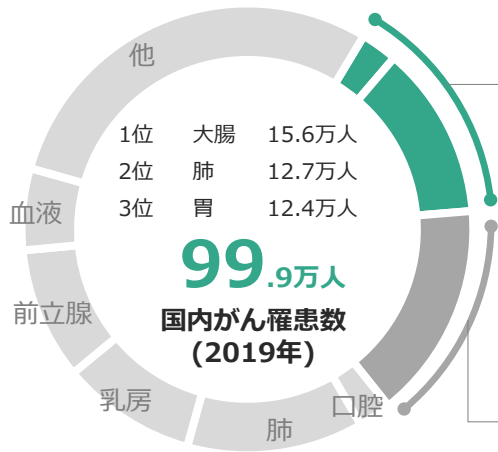
- 上部内視鏡検査件数は、下部検査の**3倍(国内)**
- 胃がんの5年生存率は、大腸がんより**低い**

- 特長①** 胃がん・食道扁平上皮癌疑い領域をリアルタイムに検出
- 特長②** 新機能「ランドマークフォトチェッカー」で、胃の内部にある臨床的な特徴を有する複数の主要部位の観察をサポート
- 特長③** 医師の負担抑制を考慮し、内視鏡システムと一体化した操作性を追求

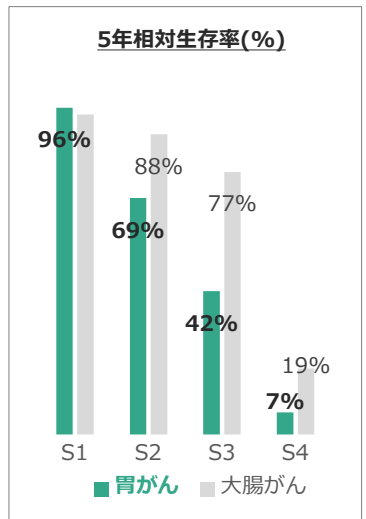
■ 下部 | 大腸



2020年発売



厚生労働省健康局がん・疾病対策課
全国がん登録罹患数・率報告2019



*AI技術を活用して開発された、上部消化管領域の内視鏡診断を支援する医療機器として日本初。JAAME (公益財団法人 医療機器センター) Webサイトをもとに当社調べ。2022年9月22日時点。

国内大病院層で高いシェアを誇るNEXUSと当社内視鏡との親和性を高めることで 内視鏡全体のシェアアップを目指す

情報管理システム
NEXUS

画像・動画管理や、症例検索、洗浄管理、レポート作成等のワークフローをデジタル化
全国約700施設で稼働実績があり、特定機能病院におけるシェアNo1

01

Availability

内視鏡メーカーを問わず、現在の検査環境を維持

02

Connectivity

他部門ネットワークシステムとの接続が可能

03

Usability

IT環境やPC操作に不慣れな方でも簡単に使える設計

NEXUS
特長

他社

NEXUS


国内特定機能病院シェア

50%+

No 1*

当社

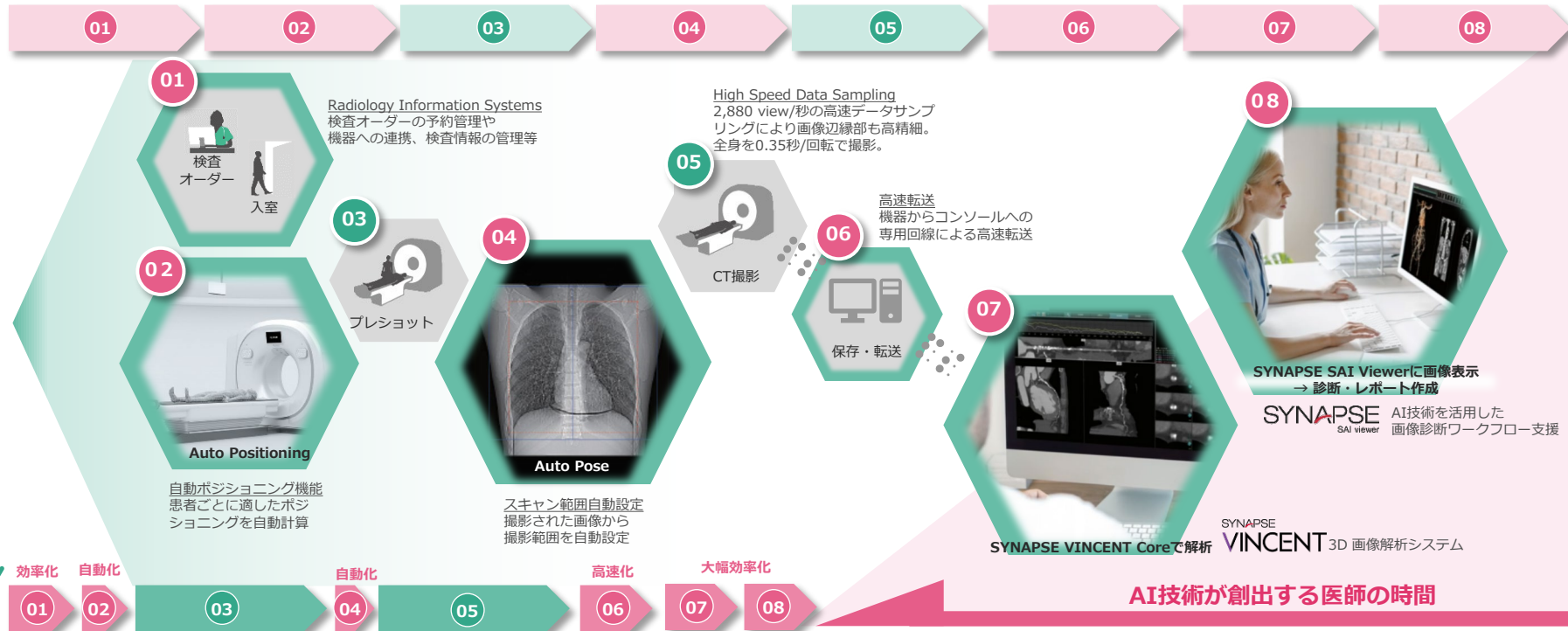
内視鏡機器
シェア



*当社調べ

当社の強みであるIT/AI技術を機器と連携し、全体ワークフロー(検査・診断・レポート)を大幅に短縮 放射線科医の不足・過重労働といった医療課題を解決する

従来フロー

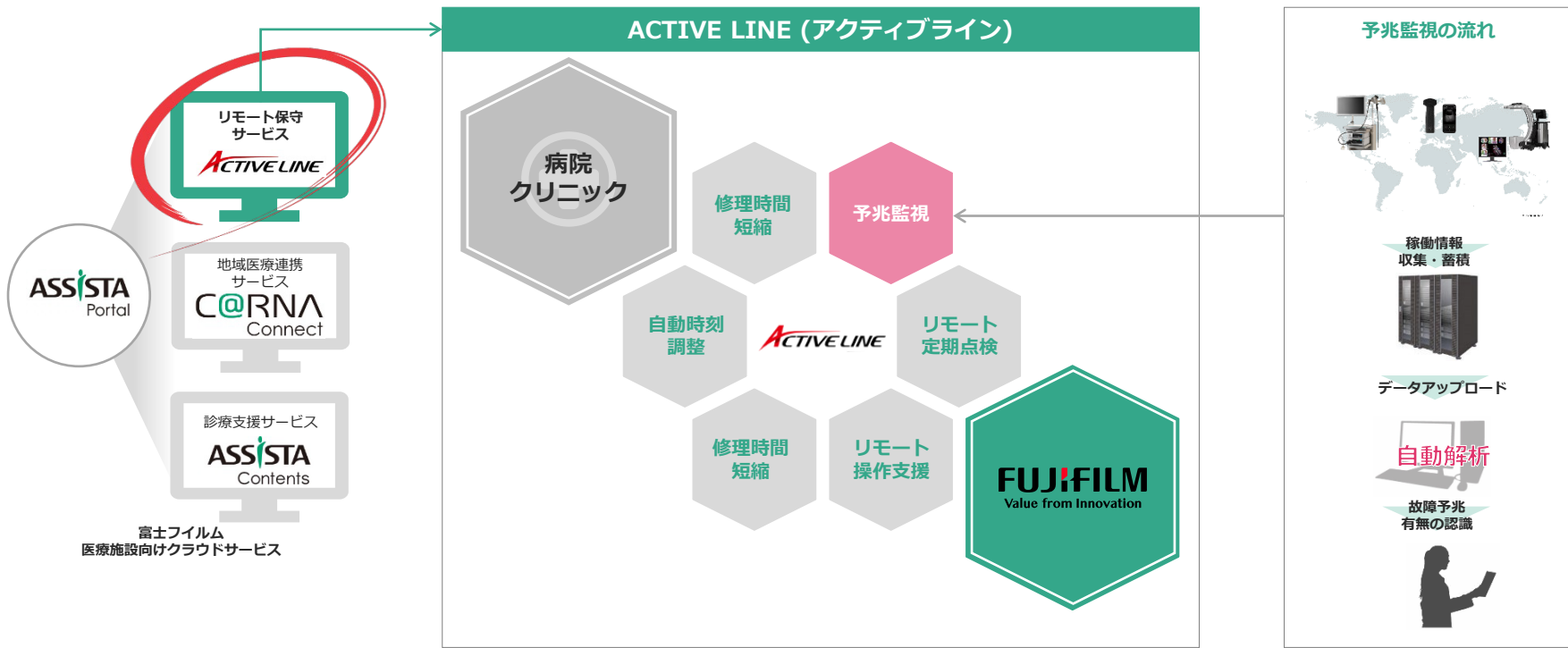


機器&IT/AIにより改善したフロー

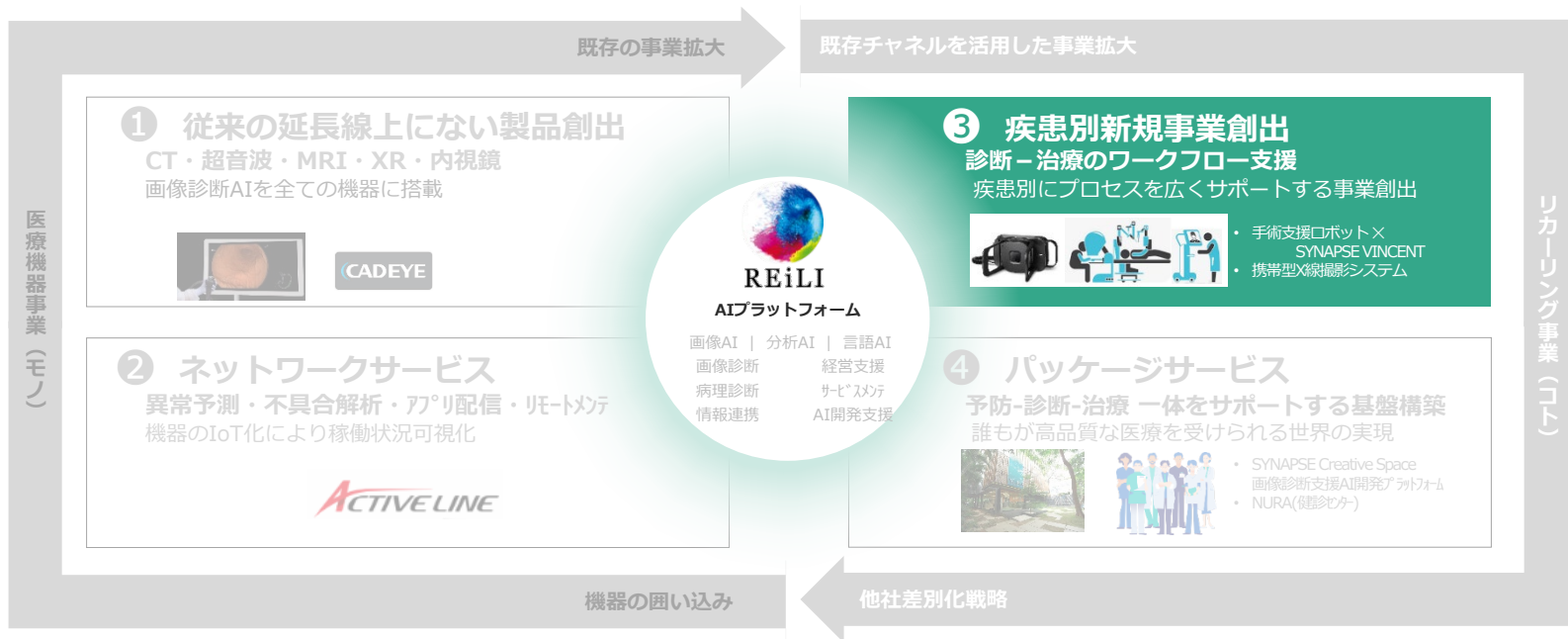
全機器のIoT化により稼働状況を可視化
 品質および経営係数の分析を行うことでサービス収益を向上させる



病院層向け・クリニック層向けリモートサービス ACTIVE LINEを利用して、
検査情報等を一元管理することで、統計・集計に利用できる稼働情報分析サービスを提供する



3 機器とAIプラットフォームを足掛かりに、疾患別の新規事業を創出する



低侵襲治療が拡大する中、術前シミュレーション技術を応用し、術中ナビゲーションシステムを開発・展開 「見えないものを診る」外科総合ソリューションを確立する



SYNAPSE VINCENTを活用した
高精度な3D 画像抽出による
術前シミュレーション

目標

手術の進行とあわせて必要な情報がリアルタイムに参照可能となり、
より安全な手術や、効率化が実現できる術中ナビゲーションを開発
→「見えないものを診る」外科総合ソリューション

実用例

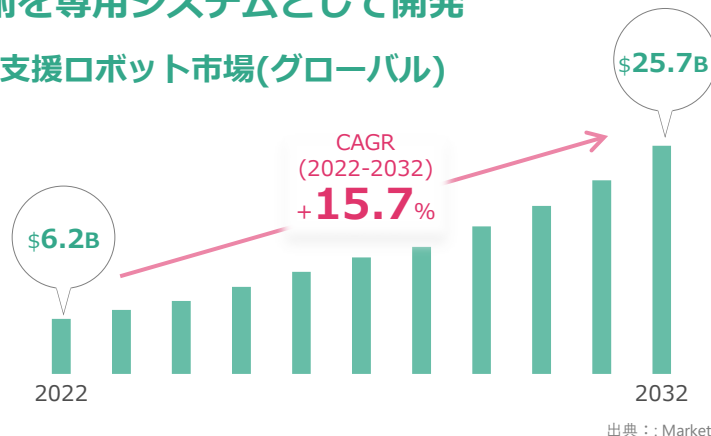
ロボット手術向け専用システムとして開発した
術前シミュレーション技術を、ロボットベンダー各社に提供

高い市場成長が見込まれる手術支援ロボットに向けて、
当社が培ってきた術前シミュレーション技術を専用システムとして開発

■ 手術支援ロボットのメリット



■ 手術支援ロボット市場(グローバル)



“ 病変部や血管の位置が、呼吸や心臓の鼓動、医師の施術等によって常に変動する中でも、
「**正確な3D映像をリアルタイムに表示する技術**」が重要 ”

手術映像 × 超音波画像 × 3Dシミュレーション の掛け合わせによる技術ブレークスルー

Before

執刀医が認識しにくい血管や組織の異常を発見した際、術野外で術前シミュレーション画像や元の画像を確認

After

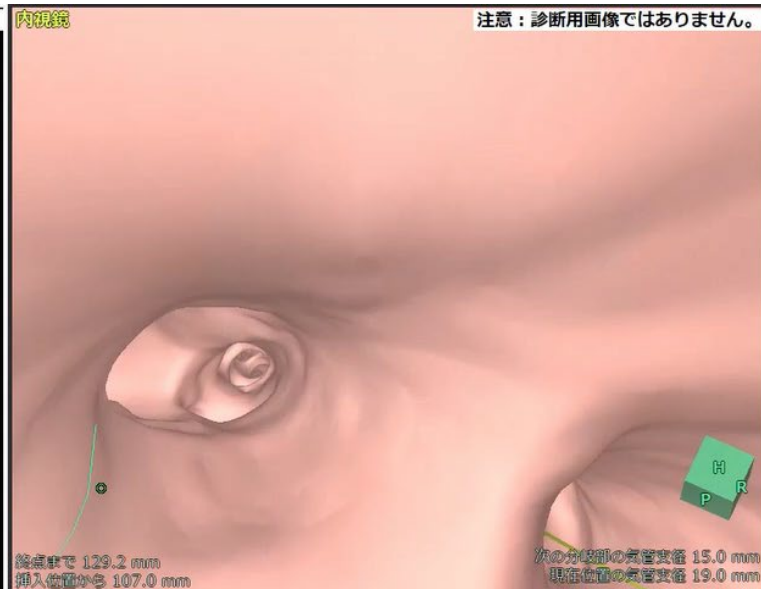
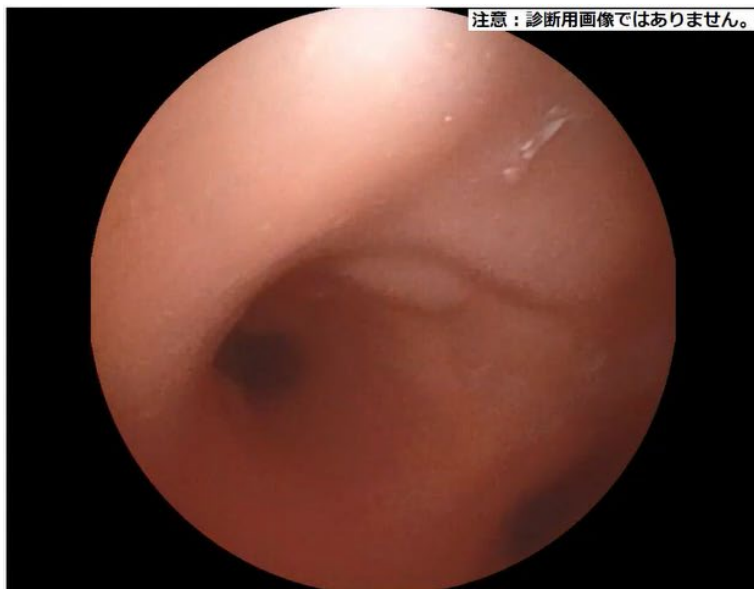
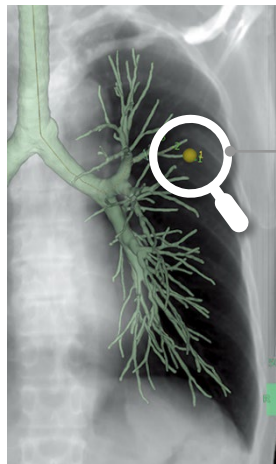
手術台近くの大型モニターに表示された、**リアルタイムで高精度な3D画像を見ながら執刀**することによる、手術時間の短縮化、および、手術精度の向上

検査支援で培ったAI技術を、術中ナビゲーションに応用

センサーを使用せず
自動同期(開発中)

気管支鏡映像

CT仮想気管支鏡



術前シミュレーション画像を実際の手術映像に合わせて表示することで、より安全な手術をサポート
ベンダー各社にシステムを提供し、ロボット手術の術場ナビゲーションにおけるプラットフォーマーとなる

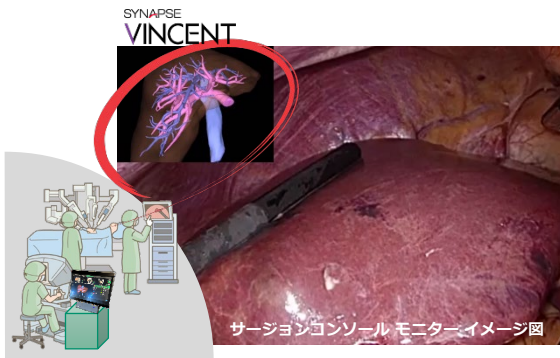
FUJIFILM

長年培ってきた画像技術



開発中の術場向けVINCENT
SYNAPSE
VINCENT

各手術手技に応じた術前シミュレーション画像を
実際の手術の映像に合わせて表示し、より安全な
手術をサポート



手術支援ロボットベンダー

ロボット工学
(機械・電気電子・情報)



(注)本スライドは開発中技術情報を含みます。

(注)本スライドは開発中技術情報を含みます。

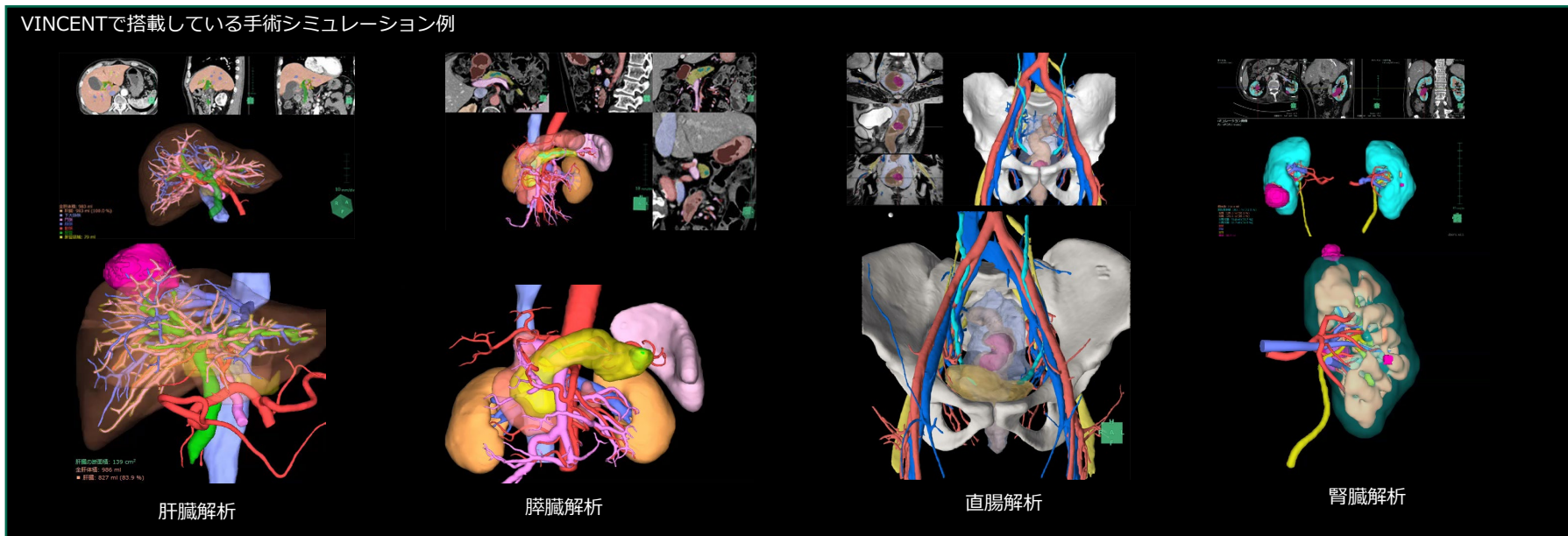
■ SYNAPSE VINCENTの様々な手術シミュレーション技術

- 胸腹部臓器（主に軟組織臓器）の手術シミュレーションに強み*1を持つ。
- ロボット手術の適用対象臓器（肺/肝臓/腎臓/大腸 等）*2の術前シミュレーションを多数ラインナップ。

*1 軟組織臓器は患者によって形状や病態が多様多様であり、それらを高精度でCT/MRI画像から抽出する技術が必要。

*2 2023年現在、肺癌/心臓形成/食道癌/胃癌/膵癌/直腸癌/前立腺癌/腎癌/膀胱癌/子宮体癌/肝臓癌/胆管癌/咽頭癌/胃癌 等の様々な癌の一部術式が保険収載されている。

VINCENTで搭載している手術シミュレーション例



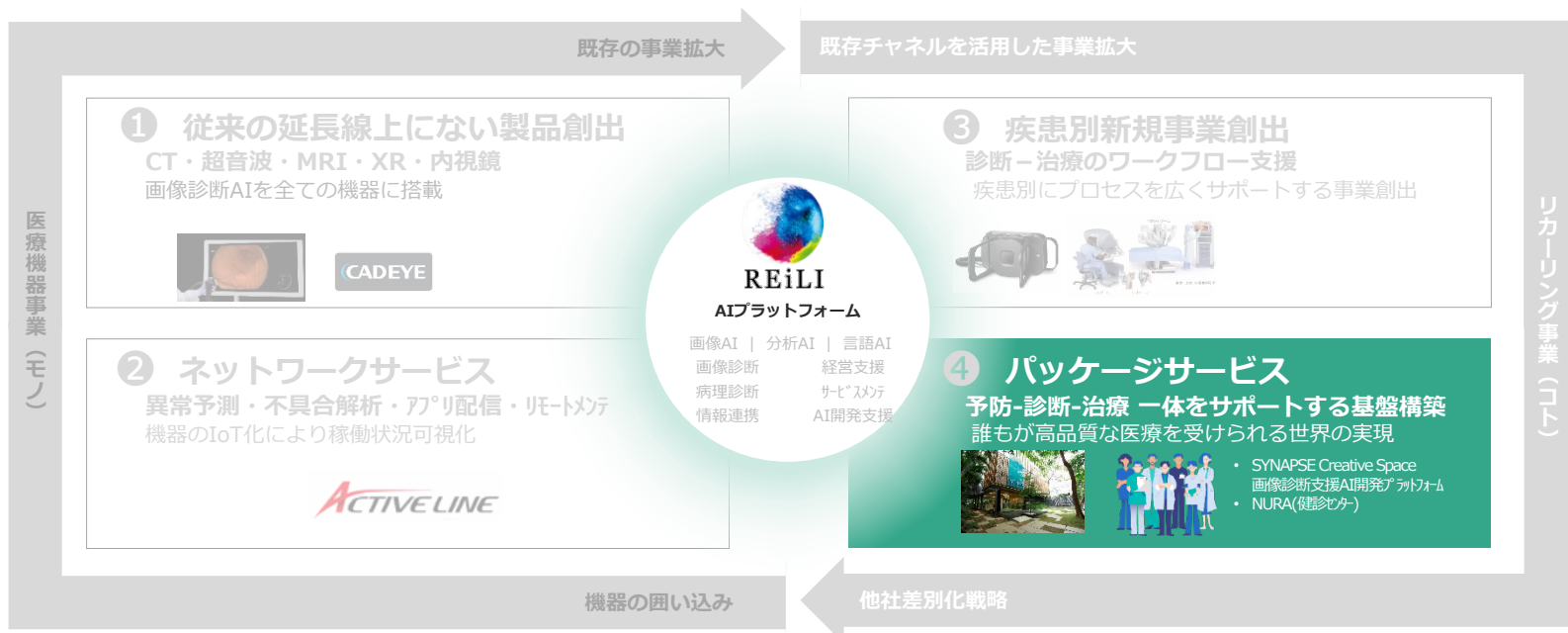
肝臓解析

膵臓解析

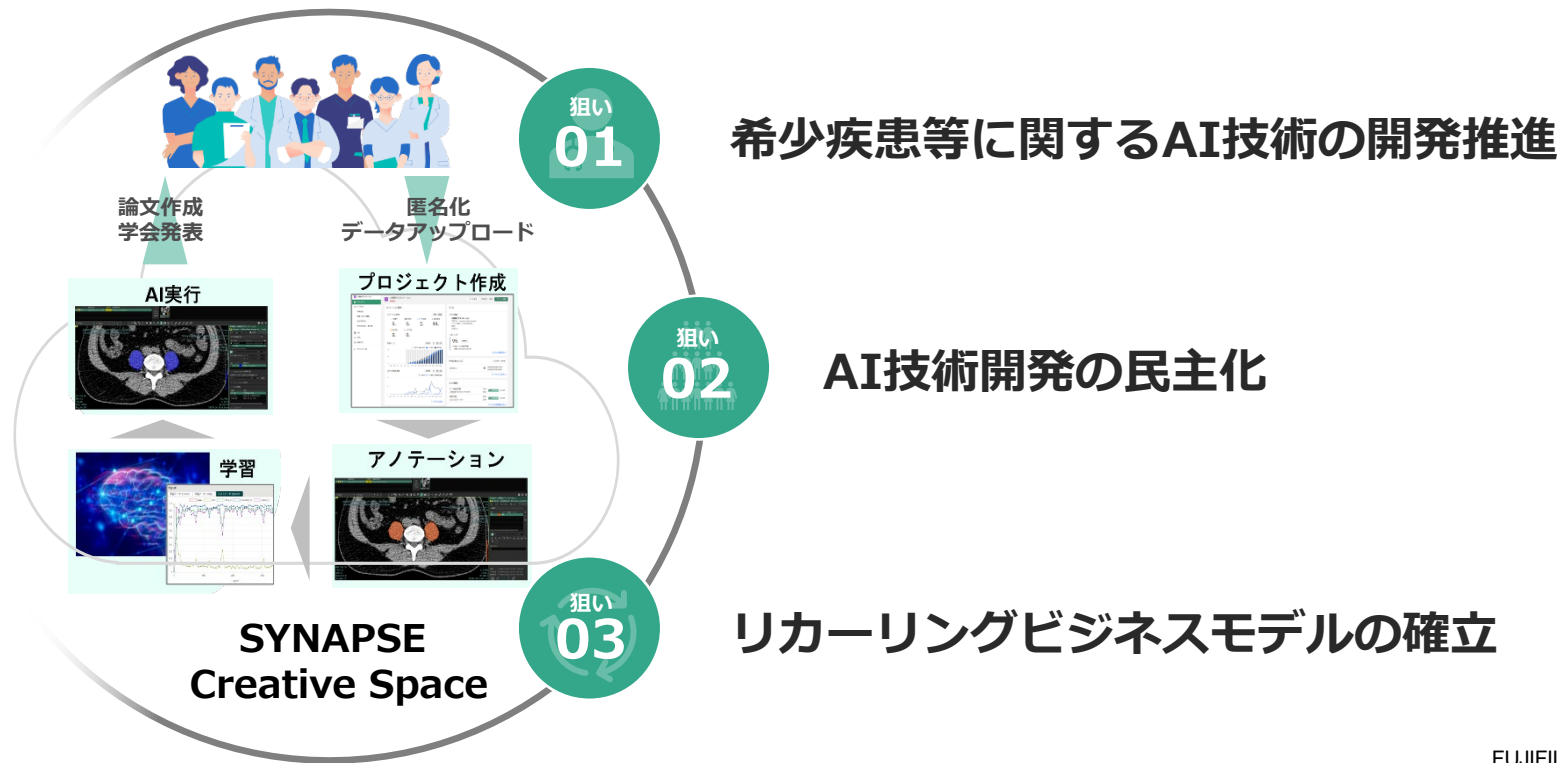
直腸解析

腎臓解析

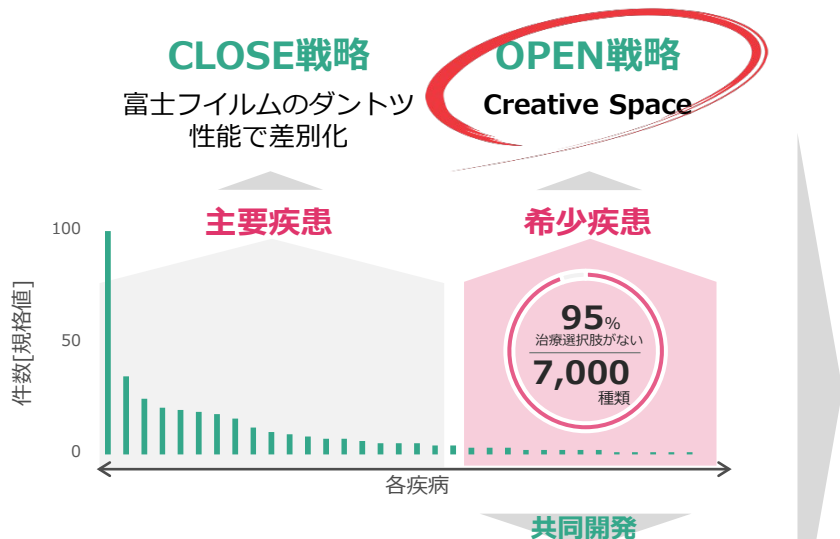
機器、AIおよびサービス事業のノウハウを活用し、誰もが高品質な医療を低コストで受けられる未来を実現する



画像診断支援AI技術開発を All in Oneでサポートするプラットフォーム「SYNAPSE Creative Space」で社会的価値と経済的価値の両面を追求した成長を実現する



患者が少なく開発が難しい希少疾患で、「SYNAPSE Creative Space」を活用し、画像診断支援AI技術の開発を促進する



FUJIFILM



国立研究開発法人
国立がん研究センター
National Cancer Center Japan



富士フィルムと国立がん研究センターが
「AI 開発支援プラットフォーム」を共同開発
研究機関や医療機関における画像診断支援 AI 技術の研究開発をサポート

(2022年4月)
β版提供開始後の導入件数 **30+** サイト

【先生方からのご評価の声】



名古屋市立大学 脳神経学科
講師 山田 茂樹 先生

世界最先端の臨床レベルのAI研究を実施、国際学会でも好評を得た



国立がん研究センター中央病院 脳脊髄腫瘍科医長
国際開発部門 研究企画室 併任
高橋 雅道 先生

直感的な操作で、様々な医療AIのアイデアを素早く検証



国立がん研究センター中央病院
放射線診断科 医長 三宅 基隆 先生

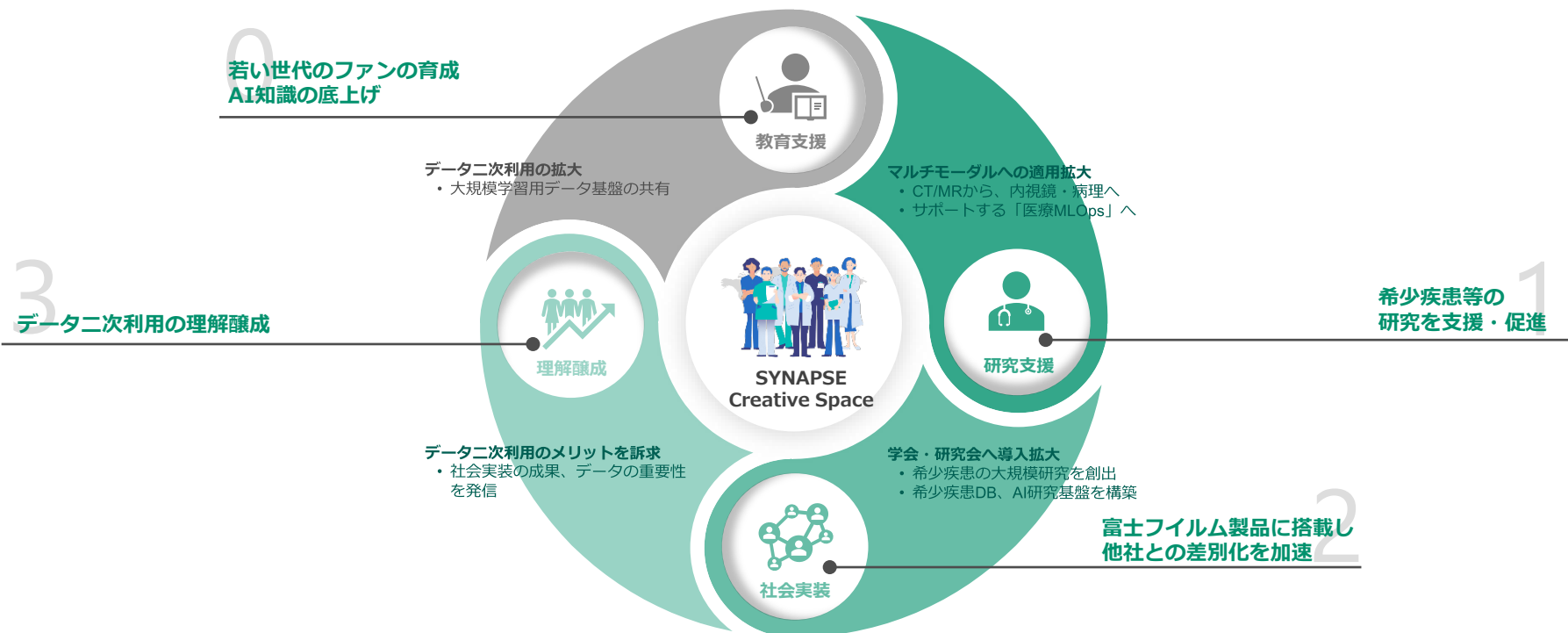
自分たちで「AIを作っている」実感が持てる



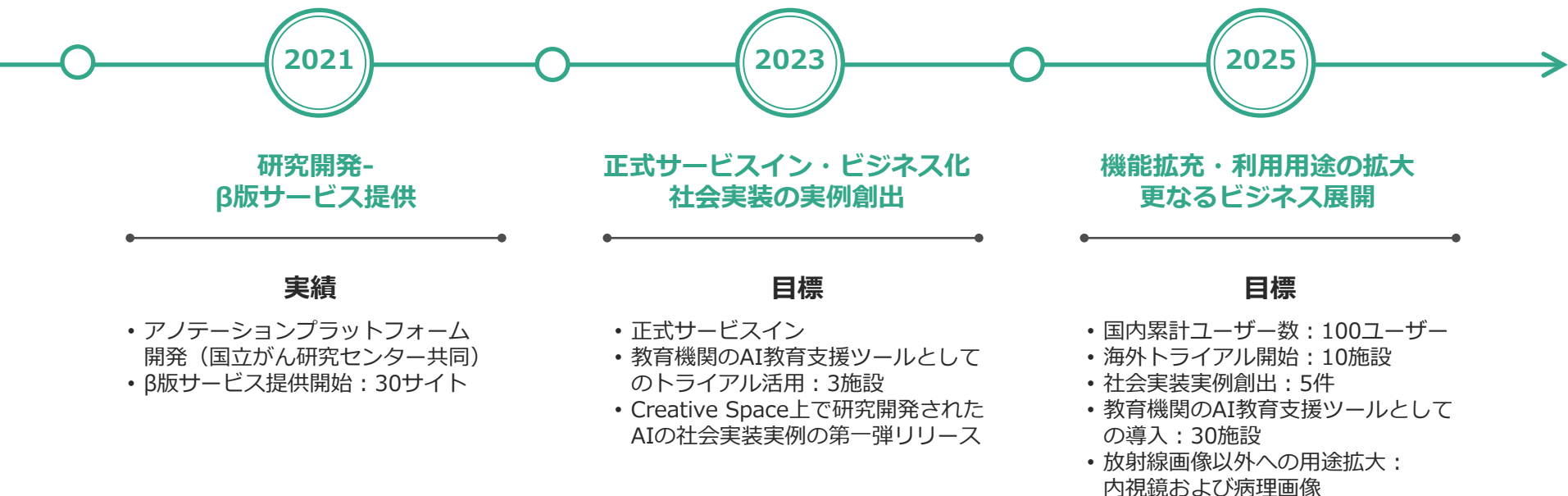
国立研究開発法人国立がん研究センター研究所
医療AI研究開発分野 研究員 小林 和馬 先生

医療AIを開発するための一連のプロセスが包括的にサポート

「SYNAPSE Creative Space」で開発されたAI技術の社会実装を進めていき、将来的にはAI開発の民主化を実現していく



「SYNAPSE Creative Space」で研究開発されたAI技術を当社製品へ搭載し製品化
 今後は、教育用途や、内視鏡・病理画像への対象を拡大し、リカーリングビジネスモデルを確立する



リカーリングビジネスモデル確立

「SYNAPSE Creative Space」上で研究開発されたAI技術のご紹介

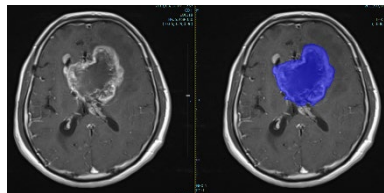
AI技術開発の民主化を推進し、希少疾患を含めた画像診断支援AI技術のラインアップを拡充する

事例①

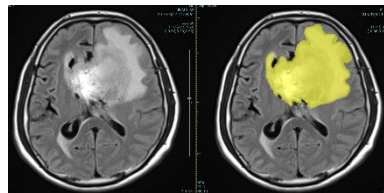
脳腫瘍が疑われる領域をセグメンテーションする技術



国立がん研究センター中央病院 脳脊髄腫瘍科医長
国際開発部門 研究企画室 併任
高橋 雅道 先生



造影T1強調画像からの造影領域の推定



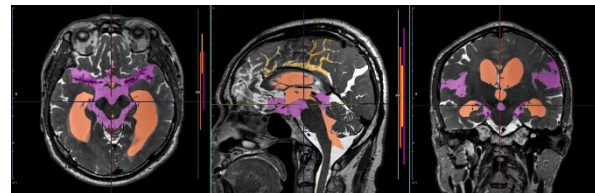
FLAIR画像からの浮腫領域の推定

事例②

iNPH(突発性正常圧水頭症)の画像診断を支援する技術



名古屋市立大学 脳神経学科
講師 山田 茂樹 先生



MR画像から高位円蓋部・正中のくも膜下腔、シルビウス裂と脳底槽、脳室領域を推定



まとめ

医療画像診断AI技術、世界シェアNo.1のPACS、先端医療機器サービスの3つを掛け合わせることで医療アクセスを向上させ、社会課題の解決に貢献するとともに、当社事業成長も実現する

製品・サービスの継続的な改善による高付加価値化

- 幅広い医療機器ラインアップと、それらを束ねるITの両方の資産を有することで得られる良質な顧客ニーズを継続的に吸い上げながら、製品・サービスを改善し続ける
- 国内グループ会社の機能軸での再編による、事業戦略立案や研究開発の機能をさらに強化

医療従事者の体験を変える

- 全ての医療機器に診断支援AI技術を搭載することで、トータルワークフローを効率化
- グローバルシェア当社No.1のPACSプラットフォーム「SYNAPSE」にAIを載せて世界中に普及させる

リカーリングビジネス

「モノ」から「モノ+コト」による価値提供への転換

- 機器とAIプラットフォームを足掛かりに、疾患別製品の拡充や新たなサービスを展開
- SYNAPSE Creative Spaceを通じて、当社先導で医用画像におけるAI開発の民主化・社会実装を加速させ、医療AI開発のインフラ・エコシステムを構築する

成長戦略

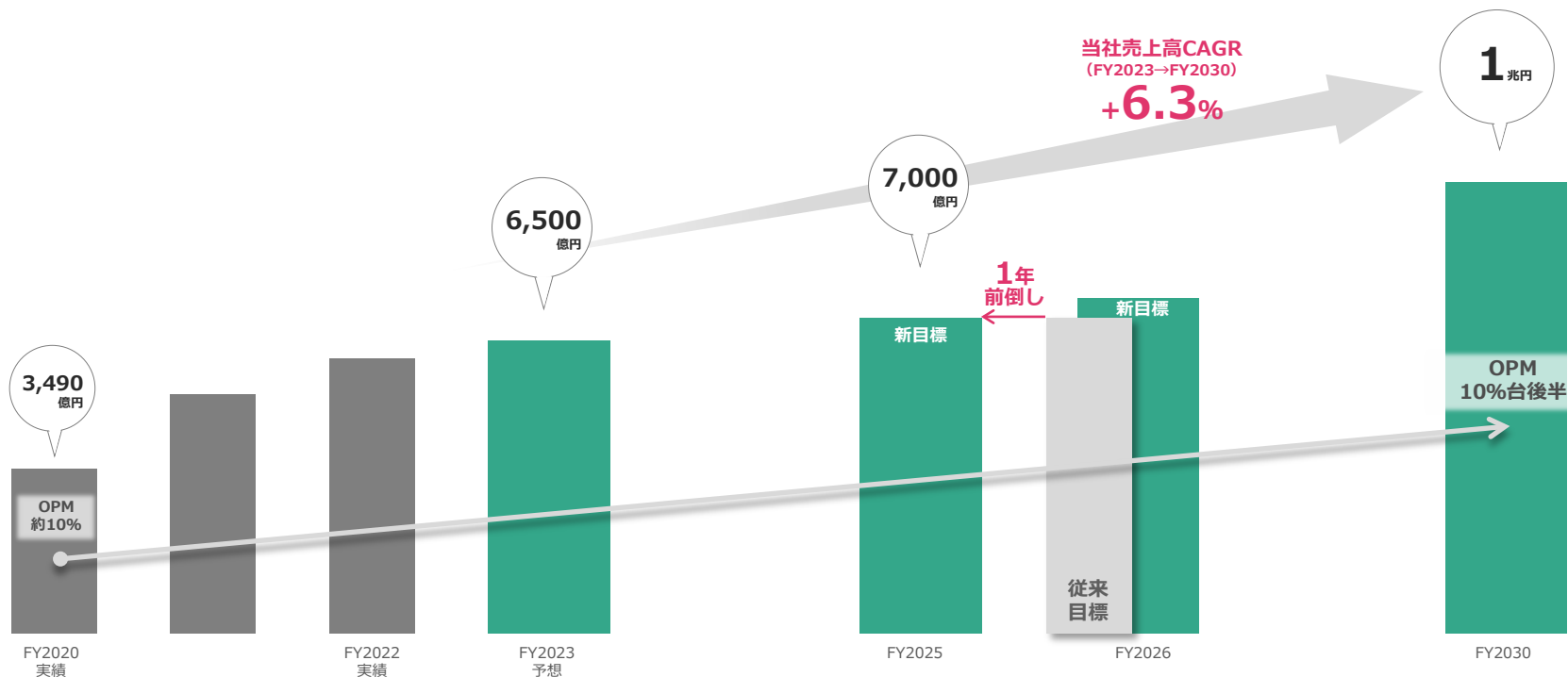
01

02

03

5-2 | メディカルシステム事業の中長期目標

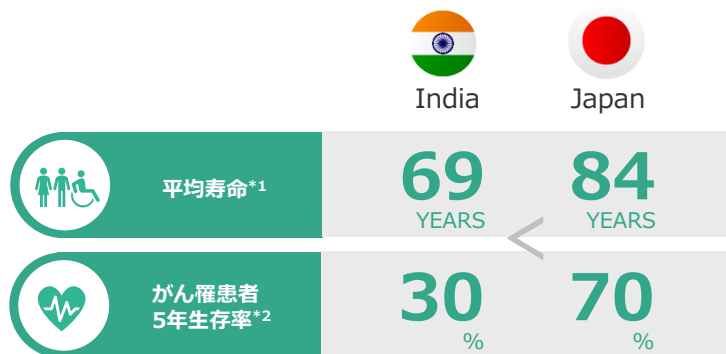
当初計画を1年前倒し、2025年度に売上高7,000億円に到達
2030年度に「売上高 1兆円・営業利益率 10%台後半」を目指す





Appendix

医療アクセスの向上にむけ、2030年度までに医療AI技術を活用した製品・サービスを、世界196すべての国・地域に導入



*1 Source: WORLD BANK
 *2 Source: "GLOBOCAN 2020" database compiled by the International Agency for Research on Cancer

なぜインド(新興国)のデータは劣るのか？


- 要因1 | 健診制度が十分ではない
- 要因2 | 「予防・早期発見」のために健診するという意識がない


健診サービスの展開により新興国での医療アクセスの向上に貢献

NURA
 Sustained Health with Active-AI Screening



- ・ 日本式の高品質な健診サービスをリーズナブルな価格（2万円強）で提供
- ・ 当社の医療機器・AI技術を活用してがん・生活習慣病の早期発見に貢献

 **120分**で全ての検査・説明まで完了

 AIを活用してCT放射線量を**大幅削減**

Appendix 1-2 | 健診センター「NURA」の展開

モンゴル国ウランバートルにNURAをオープン。今後さらなるパートナー企業との連携も視野に入れながら、東南アジアや中東アフリカにも展開し、新興国での健診サービス事業のさらなる拡大を図る

今回初

パートナー契約による「NURA」の開設

1995年より写真事業で協業してきた複合企業「Tavan Bogd Group」とテクノロジーパートナー契約を締結

NURA展開状況
(2023年10月時点)



新興国での健診サービス定着のために

健診サービス拠点の拡大

+

健診によって得られたデータを有効活用*できる仕組みの確立

*健診データを分析して、疾病リスクを予測し、生活習慣改善への働きかけを行う等

「NURA」健診データ活用に向けて

採択

経済産業省「アジアDX促進事業」

経済産業省「インド太平洋地域サプライチェーン強靱化事業」

セキュアな環境下で受診者の同意を得た、匿名化された健診データを活用する仕組みを実証

2030年度目標

グローバル拠点数

100 拠点

グローバル売上高

200 億円/年

FUJIFILM
Value from Innovation